

麗和 サッカークラブニュース

VOL.29

平成22年12月13日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 星野隆之

「気合！」

星野隆之

世界情勢、日本の政治、経済、異常気象と何をとっても不安な一年が終わろうとしています。皆様方におかれましては様々なお立場で奮闘中のこととご推察申し上げます。

新聞等で既にご存じと思いますが、原田 宏氏（中39回卒 パルスFC）が第5回「日本スポーツグランプリ」を受賞されました。長年にわたりプレーヤーとしてスポーツを続け、顕著な実績を残されている各競技団体の方々の中から僅か9名（今年度）が選ばれた権威ある賞で、サッカー界初の受賞となりました。御歳91歳、我々後輩として「お前ら、しっかりせい！」と、「気合！」と大きな力と勇気をいただいたような気がいたします。生涯現役で益々ご活躍されることを、お祝いとともにご祈念申し上げます。

現役は地区新人戦からの出場で、トーナメントまで勝ち進んでいます。FCれいわは来年度から県2部リーグで戦います。「気合！」を入れて頑張ってもらいたいものです。会費の納入状況も今一步、「気合！」を入れてお願いします！

「新年初蹴り会 ご案内」

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 日 時 | 平成23年 1月9日（日） |
| | 9:30 集合 |
| | 10:00 1年生 VS FCれいわ・若手OB |
| | 11:15 浦和一女サッカー部 VS ベテランOB |
| | 12:30 新年会（麗和会館） |
| 2 雨天時 | 1年生 VS FCれいわ 後 新年会 |
| 3 会 費 | 社会人のみ 1000円 |
| 4 連絡先 | 幹事長 宗久信男（高26回卒） 090-8170-5922 |

通常総会で改訂された「会則運営基準」に従い、下記の方々に「新監事・幹事」をお願いいたしました。公私ともにご多忙な方々ばかりですが、会の発展のためよろしくお願い申し上げます。

- | | | | |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| ○ 監 事 | 石川和夫（14） | | |
| ○ 幹 事 | 塩野 潔（16） | 利根川宜保（2） | 吉田 努（22） |
| | 松村 道彦（27） | 村井 満（30） | 小林 利成（31） |
| | 荻野 清明（33） | 駒崎 源喜（37） | 原 昭彦（38） |
| | 今村 嘉広（40） | 中禮 宏（42） | 馬場 一浩（43） |
| | 中村 寿志（44） | 渡辺 隆正（48） | 斉藤 龍馬（49） |
| | 谷 尚樹（49） | 新藤 聡（52） | 堀 達也（55） |
| | 田中 洋平（58） | | |

※ 敬称略 （ ）内数字 高校卒業回

「浦和四校サッカー部交流戦 若手編」

学校施設開放の関係で、今年度は残念ながら実施できなくなりました。

来年度に向けて企画を再考し、復活に向け努力したいと思います。

住所変更・会員消息・連絡等は
下記アドレスへお願いします。
連絡先アドレス 星野隆之
takayuki40402002@yahoo.co.jp

55回卒 田山

2007年、浦和レッズがアジア制覇に王手をかけたイランでチームと共に闘っていた。

2010年、日本代表が南アフリカの地で涙を呑んだその瞬間、サポーターとともに肩を落とした。

この二つの記述から、さぞサッカー界の中心的な立場のOBがいるのだろうと感じた方もいらっしゃるかと想像するが、私は旅行会社にごく普通のサラリーマンとして勤務している。

大学卒業後、西鉄旅行株式会社という旅行会社に入社、以来スポーツチームの遠征などを主に扱う部署で働いているが、上記のような貴重な経験を積みさせてもらっている。

一般的な旅行会社の業務からはイメージすることが難しいかもしれないが、「快適で思い出に残る旅行」は、この世界の場合、「試合に集中し、勝利を得る遠征」に置き換えることができ、その為に必要な手配や調整を行うという意味では、やはり旅行会社の業務であると考えて差し支えないだろう。

したがって、サッカーチームの遠征も一種の旅行であり、そこには旅行会社の仕事が存在している。余暇を楽しむ観光旅行との決定的な違いと言え、サッカーチームは闘って勝利を得ることを目的として遠征しているという点である。

一口に遠征といっても必要な手配は多種多様で、国内航空券を手配するだけということもあれば、ホテル・航空便・バス等地上移動・通訳などはもちろん、相手チームの試合映像を手配することもある。

私の現在の業務で比重が大きいものとして、鹿島アントラーズがここ3年出場しているアジアチャンピオンズリーグというアジアクラブのナンバー1を決める大会の業務が挙げられる。基本的な業務としては、ホテル・航空便・バス等地上移動・通訳の手配をチームスケジュールに沿った形で行っていくことであるが、プロチームの遠征であるが故、ここには書き切れない細かな調整事項が存在する。また、現地へはチームより1日早く入り手配事項の最終確認を行い、チームの現地入り後は食材の買出しやボール拾いなど、チームマネージャーの手足となって文字通り何でもやる。特に海外では、予定通りに事が進まないことが普通である為、現場での対応力が問われる。

そもそも自分自身がサッカー狂い、尚且つ寝食をともにしていることも手伝い、チームが勝った時は飛び上がるほど嬉しく、負けてコーチに謝られた時は涙しそうになったこともある。ただし、社会人として当たり前のことだが、旅行会社の社員として帯同していること、試合結果に因らず自分の仕事をきちんとすることは常に意識している。

直接サッカーに関する組織に所属しているわけではなく、チームに帯同すれば一番下端、悪く言えば雑用係であるから、諸先輩方のように「携わっているOB」と言って良いのかどうか分からない。実際、なぜ浦高出身者がこの会社で働いているのかと言われたことも多々ある。ただ、この立場故にJリーグ職員の方々や、クラブの社長はじめ組織上層部の方々からホペイロ、選手まで様々な生の現場の声を聞くことができる。「サッカーに少しでも関わるような仕事をしたい！」と望んで就職をした私としては、本当に有難い経験をさせてもらっているとつくづく感じている。この場を借りて、就職に際して相談させていただいた、星野会長をはじめとする先輩方に篤く篤く御礼を申し上げたいと思う。

最後に、OBチームのFCレイワは、来年からは県2部リーグに上がることになり、若いOBやこれからOBになる現役の皆さんにそれなりのレベルの舞台を用意することができている。高校卒業後に気軽にサッカーをする場としてはもちろん、色々な年齢、立場のOB達と話すことができる貴重な場を是非とも活用していただきたいと思う。

祝 四校交流会 Uper35 浦和高校3連覇 ～四校交流会に参加して～

40期卒 矢野 武史

10月24日に第十回四校OB交流会が市立浦和高校を会場として行われた。天候にも恵まれ、各校のOBがUper50(50歳以上の部=A)、Uper35(35歳以上の部=B)に分かれ、Aチームは20分1本の、Bチームは25分一本の試合をそれぞれトーナメント形式で行った。

Uper35の部は、一昨年、昨年と連覇をしており、今大会では3連覇がかかっているとのことであった。歴々のOBの方々から相当のプレッシャーをかけられての試合であったが、出場したメンバーがよく連携してチームをつくり、市立浦和戦、浦和南高校戦をそれぞれ引き分けながらも、見事三連覇を果たすことができた。

○浦和高校Uper35チーム 試合の概要

一回戦 対 市立浦和高校

30代、40代の出場選手がそろわなかったため、50代の方にも出場していただき、25分1本の試合を戦った。ショートパスで組み立てるのが伝統の市立浦和高校に対し、それに負けないくらいに「つなぐサッカー」を展開し、終始優勢に試合を展開した。特にセンターバック、ボランチ、フォワードの中央軸を担当した選手(中禮 谷 田中庸 松村 中村)が攻守にわたり頑張った。結果は0-0の引き分けであったが、抽選の結果、浦和高校が決勝にすすむこととなった。

決勝 対 浦和南高校

1回戦(浦和西高戦)で圧倒的な強さをみせた浦和南高校との対戦。案の定、浦和高校側は序盤苦戦を強いられた。前半すぐに、相手の右クロスにヘディングをあわせられ、失点。苦しい時間が続いた。0-1のまま、刻々と時間が過ぎていき、三連覇はもう無理だろうと少しあきらめかけていた終盤、センターバックから中盤にポジションを変更した谷のはなった左クロスに、角度のないところからフォワードの中村があわせ、押しこんで同点。その後すぐに試合終了となった。規定により両校優勝。浦和高校Uper35チームは、見事三連覇を果たした。

浦和高校OBの3連覇については、参加した多くのOBに喜んでいただいた。その後の行われた浅見、鈴木、落合三氏の殿堂入り祝賀会とともに行われた懇親会の中で、柴田副会長をして「偉業」と言わしめたくらいであった。

浦和高校が全国制覇をなしたのが昭和30年代。そうした時代の方々の功績こそがまさしく「偉業」と言えるものであるが、若手のOBというものは、そうした偉大な先輩のもとで、気軽にOBとして活動したり、発言したりする場がない、それが今までのOB会の課題の一つであったと言える。

十数年前に私たちがFCレイワを発足させたのは、ちょうど、40回卒の私が大学4年生の時であったが、そうした活動も、若手OBに浦和高校に愛着をもって活動する場を自らの力で作っていかうとする努力の一環であった。(FCレイワが世代ごとのOBチームで終わらずに、現在もチームとして存続し、選手が活躍していることは、感無量で、誇りに思うことである)今回の、Uper35チームの三連覇も、また別の意味で若手OBの居場所を一つ示せたものだと思う。今後は、若いOBたちが、母校に愛着をもち、このようなOBが集う場所に積極的に参加してくれることを望むものである。そのためには、3連覇といわず、4連覇、5連覇をめざしていかなければならないが、私自身40才となり、若手とは言えない状況になってきた。20代30代のOBが積極的にOBの集いに参加し、「偉業」を継承してくれることを切に望むものである。